

1 自己評価及び外部評価結果

平成 29年 5月 24日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690200447		
法人名	健美福祉会		
事業所名	はなみずき		
所在地	高岡市中曽根500番地		
自己評価作成日	平成29年4月17日	評価結果市町村受理日	平成29年6月2日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社		
所在地	富山市荒町2番21号		
訪問調査日	平成29年5月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

理念の「笑って共に楽しく生きる」を目標に、毎日利用者様、職員も笑って笑顔で過ごせるように取り組んでいる。困った時には、皆で協力し解決していく協力体制が出来ている。日々のケアでは、一人ひとりの性格、生活歴に合った関わりを意識し、個人一人ひとりの思いに寄り添えるケアを行うよう取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

新興住宅街の一角に位置し、周辺には学校や保育園、幼稚園があるほか、いくつもの公園もあり、散歩時には子供たちの遊ぶ姿や季節の花々が満喫できる環境下にある。医療機関との連携も密になっており、入居前のかかりつけ医も尊重しつつ、提携先医師による定期往診を実施するなど、利用者が安心して暮らせる対応が取られている。職員は仕事にやりがいを感じ生き生きとケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

はなみずき

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念に基づき、利用者様、家族、職員が共に関わり笑顔で自然体で過ごせるよう支援している。	「笑って共に楽しく生きる」を柱とする事業所独自の理念をつくり事業所内に掲示している。また、理念と日々のケアの実践との整合性などについてはカンファレンスで話し合い、共有化と実践に向けた取り組みが行われている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様の方と一緒に地域の商店へ買い物に行ったり、公園に散歩に行くなどし、日頃から挨拶などを交わし、交流を持つようにしている。	自治会の奉仕活動や会合には代表又は管理者が積極的に参加している。また、夏には近隣の人達を招いての納涼祭を開催するなど地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	牧野地域包括支援センターや、牧野地区の他事業所と協力し、地域の相談役や、介護教室などを通して認知症の理解に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に、運営推進会議を行いサービスの向上に具体的に生かせるよう意見交換を行う。一方的な報告にならないよう、意見をもらう時間を作っている。	自治会長、地域包括支援センター職員、民生児童委員、利用者の家族代表がメンバーとなり、2ヶ月に一度、午後7時より開催している。会議では事業所の近況や課題並びに外部評価について報告をして意見をもらっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営、ケアサービスに関して疑問に思うこと、困ったことがあれば、担当者に連絡を取り相談し、確認している。	高岡市の高齢介護課を窓口として運営等に関するいろいろな相談をしアドバイスを受けている。また、市が主催する研修会にも積極的に参加し連携を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>内部研修を通して、身体拘束についての理解を深めている。安全で、自由な生活を支援していくために、職員間で話し合い身体拘束のないケアに取り組んでいる。</p>	<p>言葉の拘束をはじめ、外部研修や内部研修を通じ身体拘束の内容と弊害については全職員が理解している。また、理念の一環に「身体拘束ゼロ宣言」を掲げ取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修に参加した職員のレポートなどを元に他職員に内容が伝わるように努めている。事業所では、身体に変化がないか毎日観察し、変化があった時は職員同士で確認をとり虐待防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修会に参加し、理解を深めている。また、契約時に、必要性のある方には説明をしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際、家族の方には書類を通して十分な説明をし、理解を得ている。契約の途中にも、疑問がないか聞いて進めている。契約後に、発生した疑問についても説明を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関にアンケートボックスを設置し、家族の意見を聞いたり、面会時や受診時、要望などを聞き反映出来るようにしている。</p>	<p>利用者からは日々の会話の中から、家族からは面会時に意見・要望を聞いている。出されたものは職員間で話し合い運営に反映させている。</p>	<p>利用者、家族等からの意見については「意見シート」等の活用を図り、その内容と対応について記録、整理をし課題点検と全職員が共有できる仕組みづくりを構築することが期待される。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務の中での意見に耳を傾け、申し送りやカンファレンス時にスタッフの意見を引き出せるよう環境作りに努めている。	カンファレンスシートに業務改善や困っていることの記入欄を設け職員からの意見を引き出している。出されたものはカンファレンスで話し合い、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の事情を踏まえ、個人の予定を組み入れた勤務シフトとなり、無理せず働けている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ事業所での研修や、定期的にくる研修案内に参加出来る機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	牧野地区の包括支援センター、事業所と協力し、高岡支え合う地域づくり会議を開催し、家族介護教室などを開催している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活スタイル、言動の観察、家族の思い、本人の不安を聞き事業所に入居後も、混乱しないようにゆっくりと、話を聞く時間を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見や要望を聞き不安を和らげるよう努めている。なかなか、思いが伝えられない時は、色々と提案しながら促している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の実情や要望から、必要とするサービスは何かをくみ取り、その思いに沿ったケアに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時には物作りや食事の準備を共に行い、その作業中で知り得た情報を元に、ケアに活かし良い関係を築けるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期受診には、出来る限り家族に依頼している。家族としての役割を支え、本人が家族と共に過ごしやすい時間を持ってもらう為に外出や、外泊を勧めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている	利用者様との会話の中で、出て来る人名や場所を他の職員にも伝わるように記録に残し、外出した際には馴染みの場所に立ち寄り、馴染みの場所との関係性が続くよう努めている。	利用者の馴染みの関係はアセスメントシートに記入している。手紙や年賀状を出す支援や、家族の協力も得ながら馴染みの美容院や理容院への同行支援をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日全員で体操や、歩行練習を行ってもらい、お互い交流を深め合えるよう職員が間に入り、孤立しないよう環境作りを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、必要に応じて家族の方からの相談を受けた際には、出来るだけ相談にのり支援している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中で、本人の言動に留意し、アセスメント、カンファレンスを行い、本人の思いや意向の把握に努め、本人の思いに沿えるよう支援している。	利用者一人ひとりの思いを受け止めることを大切にし、その思いをどのように把握するかを職員間で確認し、会話の内容やいつもと違う表情などに留意している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や、センター方式の一部を家族にお願いし、利用者さんのこれまでの生活歴等の把握に努め、それを活用し支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の様子を介護日誌に記入し、職員間で共有している。また、カンファレンスを定期的に行い、現状の問題、改善した事を把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度、カンファレンスを行い、職員同士が個々に合ったケアを提案し話し合いプランを作成している。	介護計画作成に職員全員が関わるようなシートに職員の気づきなどを記入するように改善し、利用者ニーズの把握や家族の要望を取り入れた介護計画をカンファレンスで話し合って作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り、記録を通し全職員で情報を共有し、捺印をし把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の病院の受診や、買い物では、家族が行けない時は、代わりに職員が付き添い受診や、買い物に行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方に来て頂き、一緒に過ごす時間を作っている。秋祭りの獅子舞を施設に招いて見学したりしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	半分以上の利用者様が協力医による定期的な訪問診療を行っている。総合病院や、今までのかかりつけ医の方は、家族が付き添い、利用者の病状把握に努めている。	事業所の協力医による訪問診療や、入居前からのかかりつけ医の継続など、利用者や家族の希望に沿って適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の記録を、訪問看護記録に記入し1週間の様子を看護師に伝え、適切な看護を受けられるように支援している。困った時は、オンコールにて相談し指示をもらっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、サマリーを通し病院に情報提供し入院中も病院に訪問し状況を把握し退院に向け情報を交換している。必要時、退院時に退院カンファレンスを行い状況把握に努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の時に、終末期の対応について、説明し、意向を聞いている。重度化した場合には、かかりつけ医、家族とこれからの意向を確認しながら、対応方針の共有を図っている。また、家族との話し合いも行っている。	重度化（看取りに関する考え方を含む）における指針を契約時に書面で説明し、家族の意向を聞いているが、具体的な状態になってきた際には、医師の所見をもとに家族と相談を重ね、方針を共有し、支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルを作成し、内部研修にてすぐ実践できるようにはしているが、職員全員が落ち着いて初期対応が出来るとは言えない。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を、消防署の立ち合いにて、年1回行っている。運営推進会議には自治会長にも参加、協力して頂けるよう声をかけているが、まだ実践できていない。	火災を想定しての避難訓練を年2回実施、利用者が避難できる方法を身につけている。地域の人達には、協力をお願いしているが、具体的な協力体制は築かれていない。	今後は、避難訓練に地域の人達に参加してもらうよう働きかけると共に、地震や水害に備えた対策を立てることが期待される。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いに注意し、どんな時でも本人を否定せず、受容的態度で関わるように心がけている。時々、慣れすぎた言動もある為、敬いの気持ちを持って関わりたいと思っている。	利用者一人ひとりに感謝と尊敬を込めて接するように努めている。馴染みの関係を築くなかで、馴れ馴れしい対応になることがあるが、その都度、職員間で注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の様子を観察し、本人の言葉や表情から希望を推測し、自分の意思で決める事が出来るよう、声掛けを工夫するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の考えを一方向的に押し付けるのではなく、一緒に1日を楽しく過ごせるように、毎日本人にも聞き、決めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度美容院に来てもらい好みのヘアスタイルにしてもらっている。毎朝、髭剃りや、夕には顔パックや、ミルクローションマッサージを行っている。希望があればマニキュアも使用している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理時には、利用者様に味見をしてもらい、味付けのアドバイスをもらっている。利用者さんの能力に合わせ、配膳、下膳、盛り付けなどを手伝ってもらっている。	共に食事をつくり、味わうような雰囲気のもと、一人ひとりの力に合わせて手伝ってもらい、張り合いを感じながら、食事を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理票で一人ひとりの食事量を把握し、定期的な体重測定を行い、看護師や医師からアドバイスをもらっている。嚥下能力に応じて食事形態、水分のとりみの使用などを検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い出来ない所は職員が支援している。一人ひとりに合わせた口腔ケア用品を使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	管理票に排泄状況を記入し一人ひとりに合ったパターンでトイレ誘導を行い、失禁なくトイレでの排泄が出来るよう支援している。尿意や便意がある時の、サインを見逃さないようにしている。	利用者ごとの排泄パターンや変化を把握し、一人ひとりに合わせた支援方法を職員間で話し合い、排泄の自立支援につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の方には、水分補給を多めにとってもらう様にし、オリゴ糖や乳酸菌の入った飲み物を提供し、自然排便に努めている。便秘が続くようなら、かかりつけ医と相談し、下剤の調整をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	声かけを行い、一人ひとりのペースで入浴してもらう様配慮している。拒否のある方は、時間をずらしたり、職員のチームプレーの関わりや、本人の機嫌の良い時間帯の誘導などを行い、入浴を勧めている。	気持ち良く入浴してもらえるよう、利用者ごとのペースに合わせた入浴支援に努めている。また、血圧が高めの利用者への入浴支援マニュアルを浴室前に貼り、その都度再確認するなど、安全に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活歴を参考にし、必要な利用者さんには、24Hシートを使用し毎日の生活パターンの把握に努めている。夜間、安眠出来るよう日中の活動量を増やすなど工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服時、本人と一緒に確認し、口に入れ飲み込んだかの確認をしている。処方内容は、薬情報のファイルにとじスタッフで共有出来るようにしている。変更時は、申し送りノートに記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味に合わせた活動を、生活の中での役割として取り入れている。(ボタンつけ、ズボンの補修など) 天気の良い時などは、外出をし、気分転換出来るように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族さんと自由に外出してもらっている。ホームでは、天気の良い日など散歩や買い物、お花見ドライブなども計画し実行している。	事業所の近くの公園を散歩したり、近くのドラッグストアに買い物に出かけたりしている。桜の時期には、少し遠出のドライブなどを楽しんでいる。また、家族の協力を得て、一緒に外食などを楽しんでもらっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	毎週水曜日、パン屋が来るので、自分の好きなパンを買ってもらっている。おやつなど欲しい場合は、一緒に出掛け購入している。購入時は、自分でお金を払ってもらよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望がある時、家族が連絡を取りたい時は、家族の都合の良い時間に電話などで会話を持ってもらっている。手紙のやり取りは、自由に行っておりホームに届いた手紙などは本人に渡している。年賀状も家族や友人とやり取りしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間では、過ごしやすい環境を作る為、空気清浄機や加湿器などを設置。冬場、一定の過ごしやすい温度を保つため床暖を使用。生活空間では、季節の飾りなどで目で季節を感じれるようにしている。ホールには、大きな窓もあり、自然の光を取り入れ庭には木や花を植え季節を感じられるよう工夫している。	事業所の中でも、四季や生活感を味わってもらえるよう、季節の花や装飾品を飾ったり、キッチンからご飯が炊きあがる匂いなどが流れるよう工夫している。また、室温や乾燥具合、明るさなどに配慮しこまめに調節するなど、居心地のよい共用空間づくりに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個別の居室には、テレビがある方もおり、思い思いに過ごす空間がある。ホールでは気の合った利用者さんで、レクリエーションや談笑をして過ごしてもらえるように見守りをしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら本人の意思も尊重し、居室には持ち込みのタンスや本棚、写真、ぬいぐるみなどを置き自宅で過ごしていたような、環境に近づけるよう工夫している。	自分の部屋と感じてもらえるよう、自宅から使い慣れた家具や思い出の品々を持参してもらい、穏やかに安心して暮らせる居室をつくっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、居室、トイレなど歩行時に必要な手すりが設置してあり、見守りや付き添いのみで過度のケアは行わず、自立した生活に向けた取り組みを行っている。夜間、自分でトイレに行かれる方には、足元を照らす常夜灯を設置し転倒のないようにしている。			

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 はなみずき
作成日 平成29年6月2日

【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	年2回の火災を想定しての避難訓練では一連の流れなどは理解し取り組む事は出来ているが、災害を想定し地域の方からの協力や応援に繋がる、いち住民としての関わりが薄い為、いざという時の協力的体制を構築していく事が課題である。	地域の行事に参加し、地域住民との交流をはかり、施設の行事にも気軽に足を運んでもらえるような関係作りを目標とする。	運営推進会議での、自治会長への協力依頼を行い、施設の行事の案内や、避難訓練時の地域住民への協力依頼などを回覧板などを利用し、施設で行っている事を発信し伝えていく。納涼祭等には、チケットを持って近所に出向き、住民の方に参加して頂くよう伝えていく。地域の行事には施設のテントなどの貸し借りを通じて、自治会との繋がりを深めていくよう取り組んでいく。	1年
2	10	利用者、家族からの意見を記入する「意見シート」はあるが、その場で解決又は、申し送りノートに記入し解決していく流れになっており、意見シートを活用し対応方法、解決までの流れが全職員に伝わらず、内容を理解しサービスに繋げていく事までは出来ていない。	利用者、家族の意見や要望を意見シートにその都度、記入する事の意識づけを行い、その書いた記録を活用し今後の、サービスの向上に繋げていく事を目標とする。	利用者、家族からの要望や意見があった際に記入していく、「意見シート」の書き方や活用方法についてのマニュアルを作成し、マニュアルを元に進め方についての勉強会を行い今後の取り組み方についての意識づけを行う。活用していく中で、出来ている事出来ていない事をピックアップし、出来ていない事については、どうして出来ないのか？どうしていけば出来るようになるのか？の振り返りを行い職員全員が理解し活用していけるように、取り組んでいく。	3か月～1年
3					
4					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

はなみずき